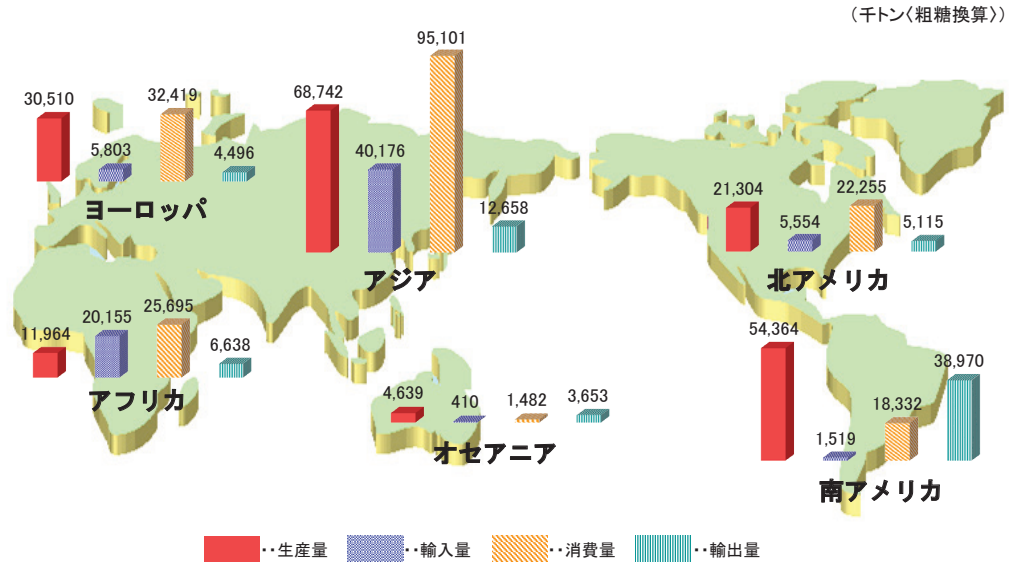


砂糖の国際需給

調査情報部 高田 勇一、峯岸 啓之

1. 世界の砂糖需給（2023年9月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別砂糖需給（2023/24年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2023」
 注1：年度は、国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

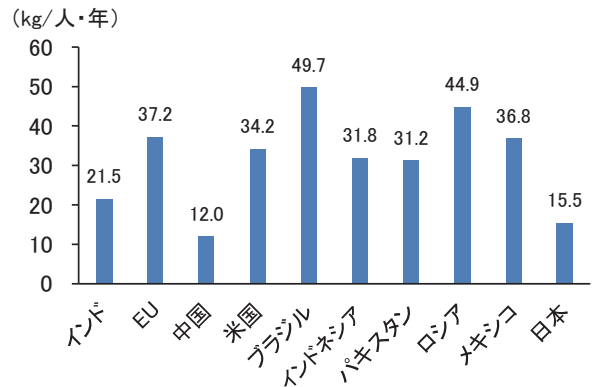
LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）による2023年9月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2023/24砂糖年度（10月～翌9月）の世界の砂糖生産量は、1億9152万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉）、前年度比0.1%増と前年度から横ばいでの推移が見込まれる（表1）。生産量第1位のブラジルで増産が見込まれ、EUや中国などで前年度の減産から回復が期待されることから、世界全体では前年度を上回るが、生産量第2位のインドを筆頭に、タイやパキスタンなどでは前年度を下回る見通しである。

また砂糖消費量は、EUではわずかに減少が見込まれるものの、消費量第1位のインドを筆頭に、ブラジルやインドネシア、パキスタンなどで増加が見込まれ、世界全体では1億9528万トン（同3.2%増）

とやや増加が見込まれる。

この結果、期末在庫率は前年度比2.1ポイント減の38.1%となり、7年ぶりとなる40%割れが見込まれる。地域別の砂糖需給の予測値は、図1の通りである。

（参考）一人当たり砂糖消費量（2023/24年度）



資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2023」
 注1：年度は、各国の砂糖年度。
 注2：EUには、英国を含む。
 注3：図2の消費量上位9カ国・地域および日本を表示。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1993/94	43,011	111,671	29,296	111,545	30,792	41,641	37.3
1998/99	55,071	134,755	36,987	124,048	39,954	62,812	50.6
2003/04	67,776	143,453	44,661	145,044	47,150	63,697	43.9
2008/09	67,085	150,476	48,241	160,676	49,830	55,297	34.4
2013/14	63,710	184,058	58,323	175,873	61,044	69,173	39.3
2018/19	81,087	186,663	61,437	182,775	61,500	84,912	46.5
2019/20	84,912	181,562	69,224	181,949	71,645	82,104	45.1
2020/21	82,104	181,418	66,870	184,119	68,181	78,092	42.4
2021/22	78,092	186,568	69,576	186,824	71,625	75,786	40.6
2022/23	75,786	191,368	69,026	189,159	70,998	76,023	40.2
2023/24 (2023年9月予測)	76,023	191,523	73,618	195,284	71,529	74,350	38.1

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2023」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

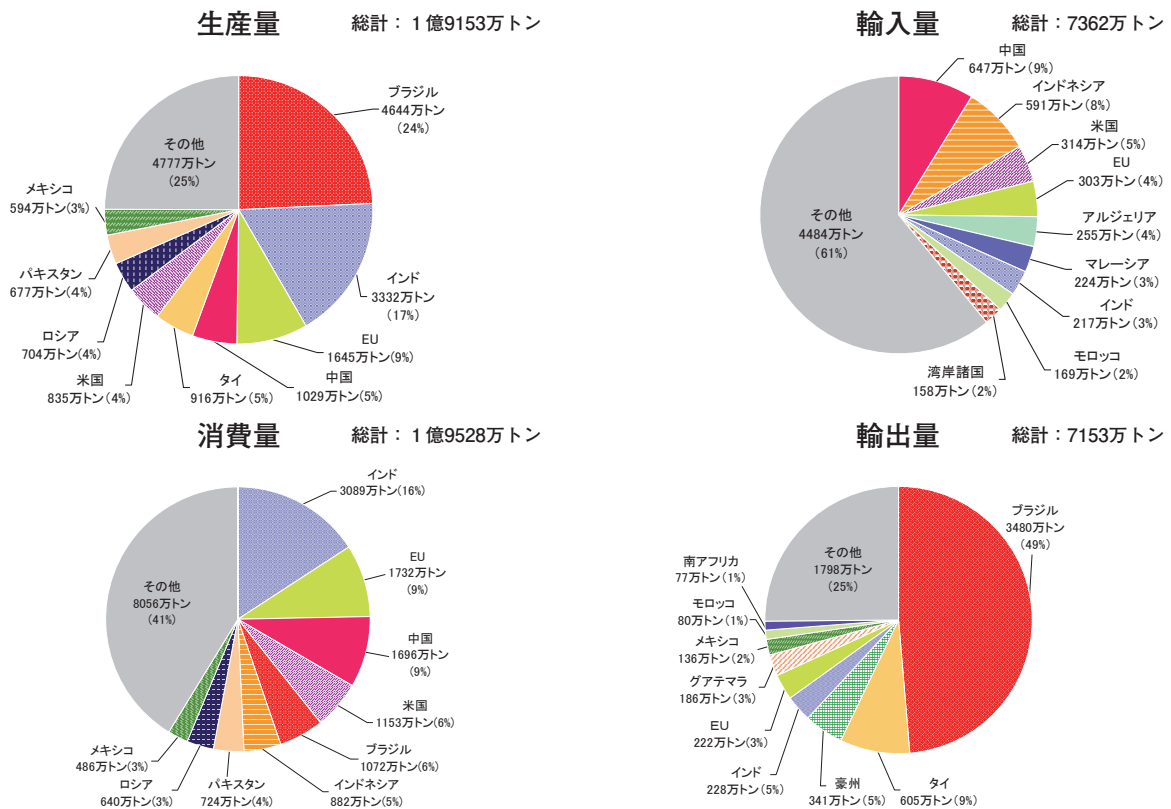
注2：2021/22年度および2022/23年度の数は推定値、2023/24年度の数は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

2. 主要国の砂糖需給（2023年9月時点予測）

図2 主要国の生産量、輸入量、消費量、輸出量（2023/24年度）



資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2023」

注1：年度は、各国の砂糖年度。

注2：各数量においては、その主要国とその他を表示。

注3：「その他」は、総計から主要国の計を差し引いた数値。

注4：端数処理の関係で内訳の合計が総計と一致しないまたは100%にならない場合がある。

注5：EUは、英国を除く27カ国。また、湾岸諸国とは、アラブ首長国連邦、バーレーン、カタール、オマーンの4カ国を指す。

【生産量】

ブラジルは、サトウキビの主産地である中南部が天候に恵まれたことで、4644万トン（前年度比16.9%増）と大幅に増加すると見込まれる（図2）。

インドは、モンスーンの到来が遅れたことによるサトウキビの減産や、サトウキビのエタノール仕向けの増加などから、3332万トン（同5.7%減）とやや減少すると見込まれる。

EUは、てん菜の作付けが雨天により遅れたものの、その後数カ月間は天候に恵まれ、栽培面積も拡大したことから、1645万トン（同4.8%増）とやや増加すると見込まれる。

【輸入量】

中国は、世界的な砂糖価格の上昇などを背景に国内在庫が取り崩され、粗糖の輸入を一時停止していたが、6月以降は輸入を再開したことから、647万トン（同10.9%増）とかなり大きく増加し、輸入量第1位に返り咲くと見込まれる。

インドネシアは、591万トン（同12.7%減）とかなり大きく減少し、第2位になると見込まれる。

【消費量】

インドは、人口の増加に伴い、3089万トン（同1.2%増）とわずかに増加し、世界の砂糖消費量の16%を占めると見込まれる。

EUは、1732万トン（同0.5%減）とわずかに減少が見込まれ、長らく世界の砂糖需要を拡大してきた中国は、1696万トン（同0.6%増）とわずかに増加するものの、EUの消費量をやや下回ると見込まれる。

【輸出量】

ブラジルは、主要輸出国が減産見込みにより輸出量を大きく減らす中で、3480万トン（同20.1%増）と大幅に増加し、世界の砂糖輸出の5割を占めると見込まれる。

タイは、乾燥による天候不順が続き、サトウキビの減産が見込まれることから、世界第2位を維持するも、605万トン（同29.6%減）と大幅に減少すると見込まれる。

豪州は、天候に恵まれ、主産地の多くで過去平均を上回るサトウキビが収穫されていることから、341万トン（同15.9%増）とかなり大きく増加し、インドを抜いて同第3位に浮上すると見込まれる。

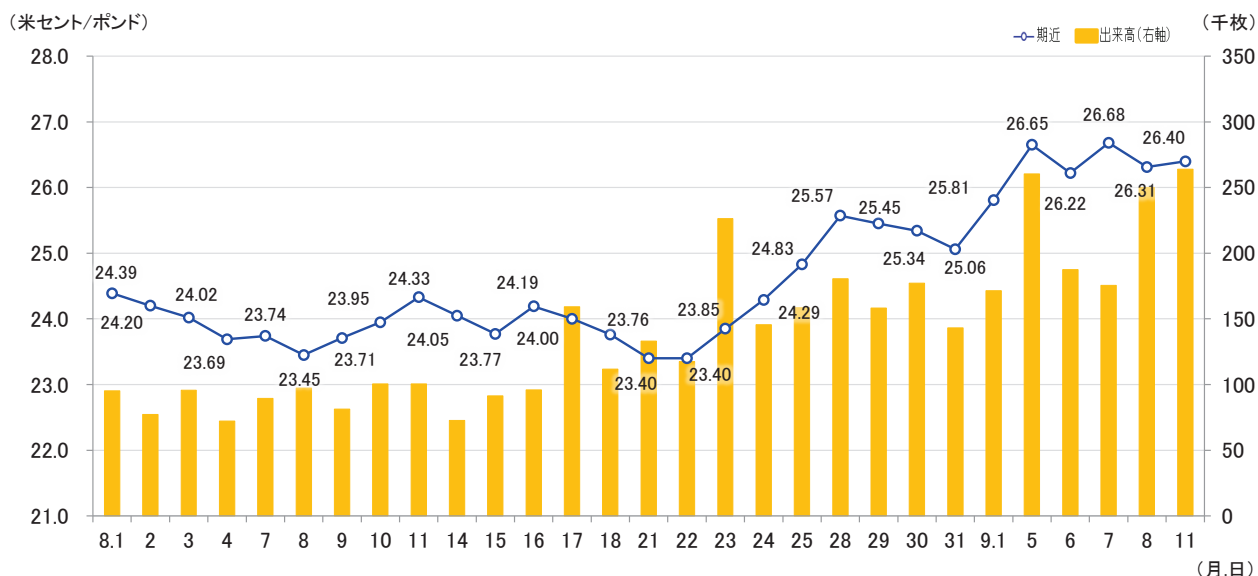
インドは、内需確保などのため政府が同年度に、砂糖輸出を認めない方針を示唆していることから、228万トン（同70.1%減）と大幅に減少し、同第4位に後退すると見込まれる。

3. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（8/1～9/11）

～インドおよびタイの不作見込みを受け、約2カ月ぶりの26セント台～

図3 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所
注：7月は10月限の値。

2023年8月のニューヨーク粗糖先物相場（10月^{がつ}限）の推移を見ると、1日は、インドの製糖企業が2023/24年度の砂糖生産量を減産（前年度比3%減）と見込んだことから、同国の砂糖供給の懸念が相場を上昇させ、1ポンド当たり24.39セント（注1）をつけた（図3）。2日以降は、原油安（注2）やリアル安（注3）を受けて下落傾向が継続し、4日は、同23.69セントをつけた。なお、同日、インド政府は同国7月末時点の砂糖在庫量を1080万トンと発表した。7日は、前週のインド政府の発表を受け、同国で十分な量の砂糖が確保され、輸出抑制緩和が期待されたが、ロンドンを拠点とする調査会社がタイの同年度の砂糖生産量を17年ぶりの低水準（前年度比で3割減）に落ち込むと発表したことなどを受け、同23.74セントと上昇に転じた。8日は、中国で7月の砂糖輸入量が前年同月比12.4%減と直近6カ月で最大の減少幅となったことが発表され、同

国での需要の落ち込みが重荷となり、同23.45セントと下落した。9日は、原油高により、同23.71セントと上昇した。10日以降は、国際砂糖機関（ISO）が同年度の世界の砂糖生産量を前年度比1.2%減と予測し、期末在庫量も前年度の85万2000トンの余剰から212万トンの不足に転じるとしたことなどを受け、11日は、同24.33セントと上昇した。14日以降は、リアルが約2カ月ぶりの安値まで急落したことから、15日は、同23.77セントまで下落した。16日は、ブラジルで豪雨発生による収穫遅延が懸念され、同24.19セントまで上昇した。17日以降は、ブラジル国家食料供給公社（CONAB）が同年度の同国の砂糖生産量見込みを4月発表の3880万トンから4090万トンへ引き上げたことから、下落基調が持続し、22日は同23.40セントまで下落した。23日は、インドでモンスーン期の少雨による砂糖の減産が見込まれ、同政府が7年ぶりに砂糖輸出を

許可しない可能性がある」と報じられたことから大きく反発し、同23.85セントをつけた（なお同政府は22/23年度の輸出許可量を610万トンとしている）。また、23/24年度の砂糖生産量を見て、最終判断するとしている。24日は、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）がブラジル中南部の8月前半の砂糖生産量を前年同期比31.2%増と発表したが、前日のインドの輸出停止の可能性に関する報道が尾を引き、同24.29セントまで値を上げ、翌日も続伸した。28日は、インド気象庁が同国の砂糖生産量の約4割弱を占めるマハラシュトラ州での降雨量減少の発表を受け、同25.57セントとさらに上昇を重ねた。29日以降は、ロングポジション^{（注4）}の清算が進んだことで下落し、31日は同25.06セントをつけた。

9月1日は、インドの8月の降雨量が1901年以来、最も少雨となったことを受け、同25.81セントまで上昇した。5日は、世界最大級の砂糖トレーダーがインドでの砂糖輸出の抑制とタイでのキャッサバへの作付転換の加速などから、同年度は世界的に砂糖が540万トン不足し、6年ぶりの砂糖不足となると見通したことから、同26.65セントと急騰した。6日は、8月後半からの相場上昇を受け、一部でロ

ングポジションの清算が行われたことで、同26.22セントと値を落とした。7日はタイの製糖会社が同国での深刻な干ばつにより同年度の砂糖生産量の減産（900万トン減：前年度比18%減）見込みを発表したことを受け、同26.68セントと上昇し、その後も、世界的な砂糖生産量の減少懸念から高止まりが続き、11日は同26.40セントをつけた。

（注1）1ポンドは約453.6グラム、1米セントは1米ドルの100分の1。

（注2）一般に、原油価格が上昇すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要も増加する。バイオエタノールの需要増加により、その原料作物（サトウキビ、てん菜など）のバイオエタノール生産への仕向けが増える一方、それらから生産される食品（サトウキビの場合は砂糖）の生産・供給が減ると想定される。食品用途仕向けの割合が小さくなるほど需給がひっ迫し、当該食品の価格を押し上げる方向に作用する。

（注3）粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが下落すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が高まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が高まると、需給の緩和につながることから、価格を押し下げる方向に作用する。

（注4）将来の値上がりを期待して買いの持ち高を取っている状態。

4. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2023年9月時点予測）

ブラジル

2023/24年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：850万ha（前年度比0.1%増）
生産量：6億7800万トン（同11.8%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：4644万トン（同16.9%増）
輸出量：3480万トン（同20.1%増）

2023/24年度の輸出量は、増産と国際需要の高まりを背景に大幅増を見込む

2023/24年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、農家の一部でより収益性の高い大豆やト

ウモロコシなどへの切り替えが進んだものの、850万ヘクタール（前年度比0.1%増）と前年度並みの水準が見込まれる（表2）。サトウキビ生産量は、主産地の中南部地域で好天に恵まれ収穫に良好な条

件が続いたことなどから、6億7800万トン（同11.8%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビの増産を受けて、収穫作業や工場での操業が加速しているほか、輸出関連の物流の全面的稼働を背景に、4644万トン（同16.9%増）と大幅に増加すると見込まれる。輸出量は、エルニーニョ現象による世界的な天候不順への懸念や国際市場での輸入需要の高まりが期待されることから、3480万トン（同20.1%増）と大幅に増加すると見込まれる。

生産者団体、サトウキビ出荷価格の増額見直しを要求

生産者団体であるORPLANAは、製糖企業への原料出荷価格（サトウキビ価格）が、国際的な比較において不当に安価となっているとして不満を表明している。ORPLANAの最高経営責任者は、現在

同国で設定している出荷価格は1トン当たり26米ドル（3827円）^{（注1）}で、米国やトルコに比べ大幅に安いとし^{（注2）}、サトウキビの生産コストを下回り、世界で最も低い価格となっているとしている。現在、同国では大豆やトウモロコシの飼料穀物の生産が順調で、収量も増加していることから、採算割れとなるサトウキビ栽培から、より収益性の高い他の作物への切り替えが進んでいるとし、同責任者は価格改定（現行価格の3割程度の上乗せ）が必要であるとしている。

（注1）1米ドル=147.2円（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の8月末TTS相場）。

（注2）同責任者によると、世界的に最も高く設定されている国は米国で、同41.30米ドル（6079円）。次いでトルコが同41.10米ドル（6050円）であるとしている。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

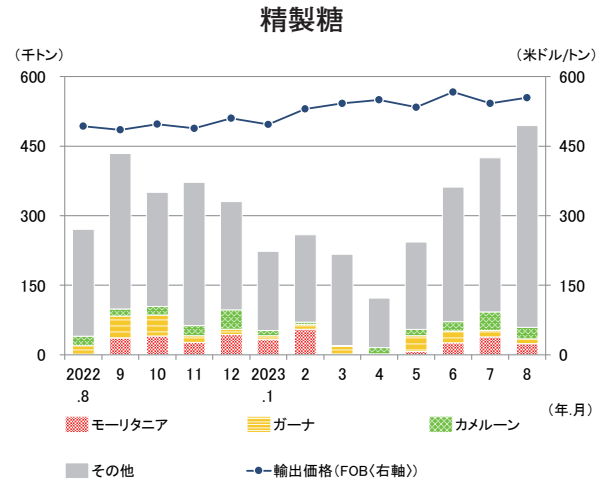
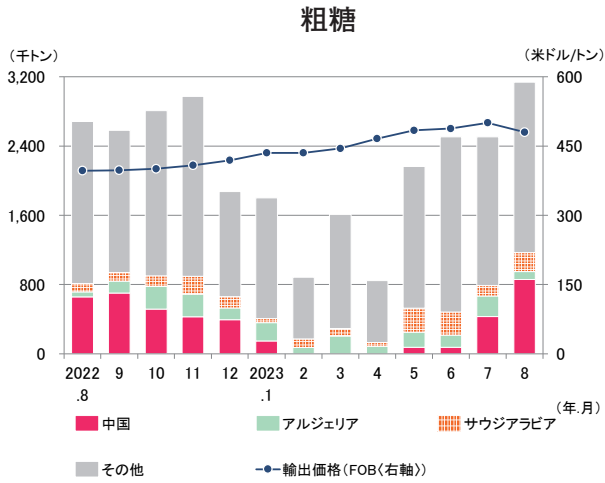
年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (8月予測)	2023/24 (9月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,651	8,679	8,485	8,511	8,495	0.1%	
サトウキビ生産量	657,432	576,707	606,676	663,000	678,000	11.8%	
砂糖	生産量	44,642	37,620	39,720	45,300	46,440	16.9%
	輸入量	6	4	2	3	3	48.8%
	消費量	10,916	10,718	10,557	10,715	10,715	1.5%
	輸出量	34,042	27,088	28,985	34,747	34,803	20.1%
	期末在庫量	3,468	3,286	3,466	3,307	4,391	26.7%
	期末在庫率	7.7	8.7	8.8	7.3	9.6	0.9ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, September 2023」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出価格の推移



インド

2023/24年度 (10月～翌9月) の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：555万ha (前年度比0.3%減)
 生産量：4億4910万トン (同3.2%減)

【砂糖 (甘しゃ糖)】

生産量：3332万トン (同5.7%減)
 輸出量：228万トン (同70.1%減)

2023/24年度輸出量は、減産と国内需要確保により大幅に減少する見込み

2023/24年度 (10月～翌9月) のサトウキビの収穫面積は、555万ヘクタール (前年度比0.3%減) と前年度からほぼ横ばいで推移すると見込まれる (表3)。サトウキビ生産量は、インド南西部でサトウキビの生育に重要な時期に非常に乾燥した天候に見舞われたことから、4億4910万トン (同3.2%減) とやや減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、インド北部ではサトウキビが順調に生育しているものの、他の主産地でサトウキビの減産が見込まれることから、3332万トン (同5.7%減) とやや減少すると見込まれる。輸出量は、砂糖の減産見込みや内需向け確保、エタノールへの仕向け量の増加のほか、同年度の砂糖輸出は行わないとする政府関係者の発言が現地で報じられていることなどから、228万トン (同70.1%減) と、前年度

に引き続き大幅な減少が見込まれる。

マハラシュトラ州、過去4年で最低数量を見込む

インド南西部の主産地であるマハラシュトラ州の8月の降雨量は平年の4割程度と、過去100年間で類を見ないほど乾燥している。英国のロイター通信社は乾燥気候を受け、2023/24年度の同州の収穫量は前年比で14%の減少と、過去4年で最少を見込んでいる。

砂糖の減産見込みは、内需確保と価格安定に向け、砂糖輸出を見合わせるとする政府の判断材料となる。21/22年度の同州が過去最高の1370万トンの砂糖を生産したときは、1120万トンの輸出枠が設定された一方で、翌年の22/23年度は1050万と減産となり、輸出枠も610万トンに減った。

同州のムンバイに拠点を置く商社によると、同州の砂糖生産は同国の輸出にとって極めて重要である

が、この度の乾燥による影響は、今年度の輸出に大きな影を落とすとして、政府は7年ぶりとなる輸出

停止に踏み込む可能性がある。

表3 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (9月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	4,849	5,280	5,565	5,546	▲ 0.3%	
サトウキビ生産量	410,545	485,135	464,164	449,095	▲ 3.2%	
砂糖	生産量	33,642	38,559	35,335	33,318	▲ 5.7%
	輸入量	1,037	428	1,195	2,167	81.3%
	消費量	28,679	29,516	30,510	30,888	1.2%
	輸出量	8,538	12,468	7,634	2,283	▲ 70.1%
	期末在庫量	7,971	4,973	3,359	5,674	68.9%
	期末在庫率	21.4	11.8	8.8	17.1	8.3ポイント増

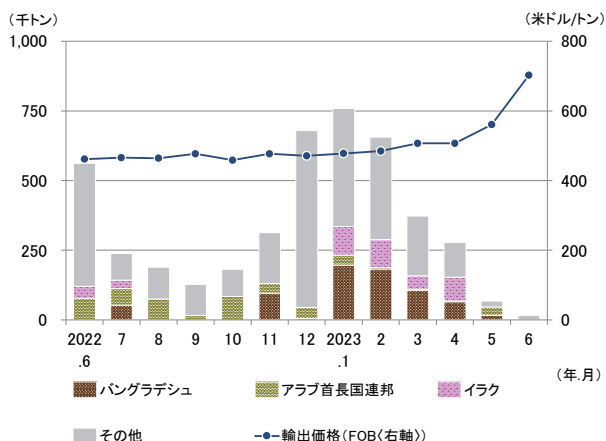
資料：LMC International 「Monthly Sugar Information in Major Countries, September 2023」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

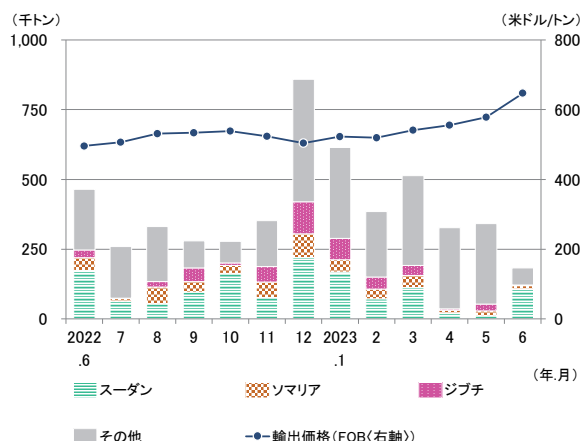
注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。

中国

2023/24年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：116万ha（前年度比0.3%減）

生産量：6828万トン（同9.0%増）

【てん菜】

収穫面積：18万ha（同9.5%減）

生産量：895万トン（同2.3%増）

【砂糖（甘しや糖およびてん菜糖）】

生産量：1029万トン（同6.0%増）

輸入量：647万トン（同10.9%増）

2023/24年度は砂糖の増産が進むも、輸入量もかなりの程度の増加を見込む

2023/24年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、116万ヘクタール（前年度比0.3%減）とほぼ横ばいで推移すると見込まれる（表4）。サトウキビ生産量は、乾燥した天候が懸念されるものの、減産となった前年度からの回復が期待され、6828万トン（同9.0%増）とかなりの程度増加すると見込まれるが、20/21年度や21/22年度の7000万トン台までの回復には至らないと考えられている。一方で、23/24年度のてん菜の収穫面積は、18万ヘクタール（同9.5%減）とかなりの程度減少

すると見込まれる。てん菜生産量は、収穫面積の減少に加え、内モンゴル自治区で乾燥した天候が懸念される中、895万トン（同2.3%増）とやや増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビの生産回復を主因に1029万トン（同6.0%増）とかなりの程度増加し、21/22年度の水準にまで回復すると見込まれる。輸入量は、近時の世界的な砂糖価格の上昇などを背景に在庫の取り崩しが進んで輸入が増え、今年度は647万トン（同10.9%増）と昨年度の水準を上回る輸入量が見込まれる。

表4 中国の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

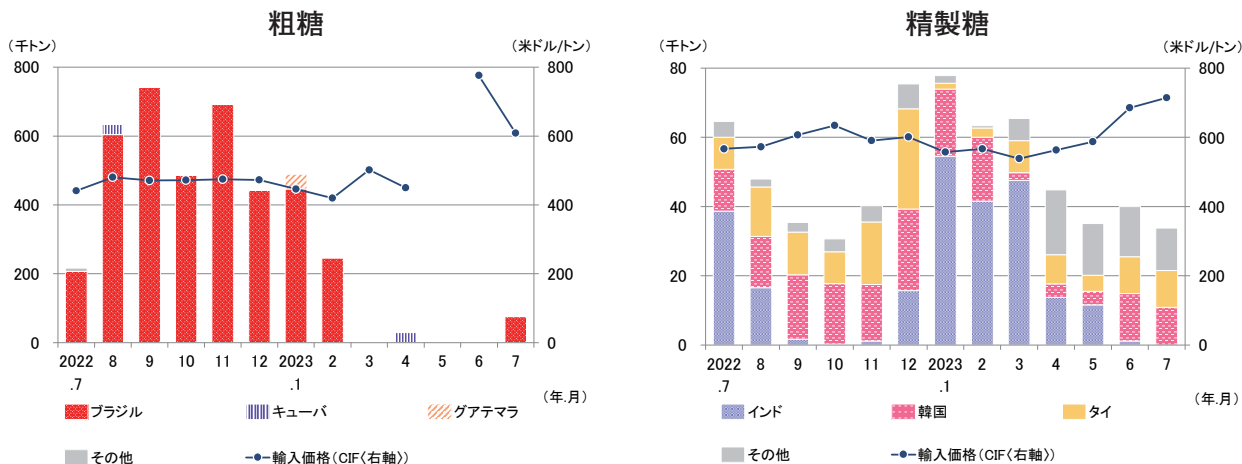
年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (9月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,157	1,119	1,163	1,160	▲ 0.3%	
サトウキビ生産量	72,441	72,136	62,635	68,275	9.0%	
てん菜収穫面積	231	144	199	180	▲ 9.5%	
てん菜生産量	12,330	7,070	8,753	8,953	2.3%	
砂糖	生産量	11,530	10,334	9,698	10,285	6.0%
	輸入量	8,198	6,961	5,837	6,473	10.9%
	消費量	16,740	16,524	16,848	16,956	0.6%
	輸出量	134	172	183	167	▲ 9.1%
	期末在庫量	15,919	16,517	15,021	14,657	▲ 2.4%
	期末在庫率	94.3	98.9	88.2	85.6	2.6ポイント減

資料：LMC International [Monthly Sugar Information in Major Countries, September 2023]

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸入量および輸入価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」
 注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。
 注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。
 注3：2023年5月の粗糖輸入は、実績なし。
 注4：2023年6月の粗糖輸入量は、千トン未満のため表示なし。

E U

2023/24年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：144万ha（前年度比2.9%増）
 生産量：1億292万トン（同3.8%増）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1645万トン（同4.8%増）
 輸出量：222万トン（同2.3倍）

2023/24年度の輸出量は、増産などを背景に大幅に増加する見込み

2023/24年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は、春先の雨天のために作付けは遅れたものの、ハンガリーやスペインで作付面積の増加が見込まれることから、144万ヘクタール（前年度比2.9%増）

とやや増加すると見込まれる（表5）。てん菜生産量は、この数カ月間北西ヨーロッパ地域の大部分で良好な降雨と日照に恵まれ、作柄の見通しが改善されたことから、1億292万トン（同3.8%増）とやや増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、一部地域では^{いおう}萎黄病^{（注）}の影響に

表5 EUの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (9月予測)	前年度比 (増減率)	
てん菜収穫面積	1,474	1,454	1,399	1,439	2.9%	
てん菜生産量	98,509	111,404	99,121	102,924	3.8%	
砂糖	生産量	14,717	17,153	15,696	16,454	4.8%
	輸入量	1,888	2,132	2,989	3,033	1.5%
	消費量	16,357	17,647	17,396	17,317	▲0.5%
	輸出量	1,262	1,312	962	2,220	2.3倍
	期末在庫量	1,332	1,658	1,984	1,934	▲2.5%
期末在庫率	7.6	8.7	10.8	9.9	0.9ポイント減	

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, September 2023」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

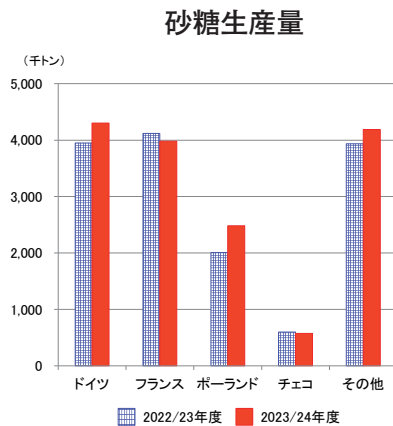
注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

よるてん菜の減産が懸念されるものの、前年度ほどの被害はないとする予測から、1645万トン（同4.8%増）とやや増加すると見込まれる。輸入量は、てん菜の増産が期待されることから、303万トン（同1.5%増）とわずかに増加する程度と見込まれ

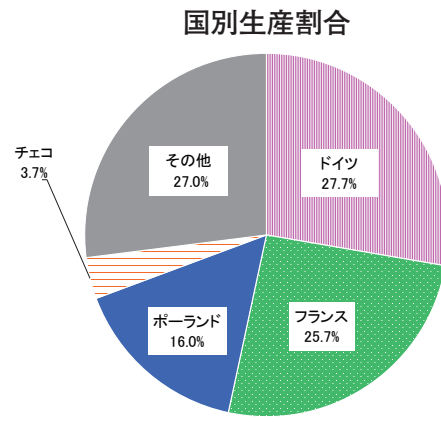
る。また、輸出量は、222万トン（同2.3倍）と大幅に増加し、回復が見込まれる。

（注）萎黄病はアブラムシによって媒介される植物ウイルス病。

（参考）EUの砂糖生産量および国別の生産割合の見通し（2023/24年度）（2023年6月時点）



資料：欧州委員会
注1：精製糖換算
注2：2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度は予測値。



資料：欧州委員会

5. 日本の主要輸入先の動向（2023年9月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先は、豪州およびタイであり、2022年の主要輸入先ごとの割合を見ると、豪州が90.7%（前年比4.1ポイント増）、タイが9.3%（同4.1ポイント減）と、両国がほぼ全量を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州

2023/24年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：34万ha（前年度比2.5%増）

生産量：3107万トン（同4.7%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：441万トン（同4.5%増）

輸出量：341万トン（同15.9%増）

2023/24年度の輸出量は、砂糖需要の高まりを背景にかなり大きく増加する見込み

2023/24年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、34万ヘクタール（前年度比2.5%増）とわずかな増加が見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、主産地であるクイーンズランド州北部で

の季節外れの降雨の影響を受けて収穫が遅れており、3107万トン（同4.7%減）とやや減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、エルニーニョ現象の発生パターンが確認されたことで、今後の降雨量は減少が予測されている。このため、多くの製糖工場が立地する同

州では、収穫期の後半に乾燥した天候が予想されることで、収穫が円滑に進むとの見込みから、441万トン（同4.5%増）とやや増加すると見込まれる。輸出量は、世界的な経済回復により同国の主要輸出先である韓国、インドネシアおよび日本などの砂糖消費需要によってけん引されることに加え、世界的な砂糖の供給懸念により豪州産砂糖需要の高まりが見込まれることから、341万トン（同15.9%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。

豪州産砂糖が50年ぶりに英国に向け出荷

豪州では、2023年5月31日の豪英自由貿易協定（豪英FTA）の発効による関税割当制度の導入を受けて、7月11日に同国クイーンズランド州からロンドンに向けて、1973年以来、50年ぶりに砂糖輸出が行われた。

今回の出荷は、同州タウンズビルのクイーンズラ

ンド砂糖公社（QSL）を発荷主とし、同州の中部沿岸のバーデキン産のサトウキビを原料とした粗糖3万3000トンで、9月7日にロンドンのTale&Lyle社の精製工場に到着した。

豪英FTA発効前の関税は、1トン当たり350ポンド（6万6483円）^{（注）}または関税率64%という高関税であったが、発効年である2023年は8万トンの無税枠が設定されている。今後、無税枠は毎年10月に2万トンずつ拡大し、31年には関税が完全撤廃となる。QSLのマーケティングゼネラルマネージャーは、来年24年の無税枠10万トンはすべて消化されると見込んでおり、この枠を使い切ること期待していると述べている。

（注）1ポンド=189.95円（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の8月末TTS相場）。

表6 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (8月予測)	2023/24 (9月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	354	342	331	339	339	2.5%	
サトウキビ生産量	31,074	30,123	32,589	31,764	31,071	▲ 4.7%	
砂糖	生産量	4,385	4,108	4,222	4,333	4,410	4.5%
	輸入量	10	9	16	14	14	▲ 12.5%
	消費量	1,010	1,010	1,009	1,010	1,010	0.1%
	輸出量	3,377	3,513	2,945	3,334	3,414	15.9%
	期末在庫量	789	383	668	671	669	0.1%
	期末在庫率	18.0	8.5	16.9	15.5	15.1	1.8ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, September 2023」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2023/24年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：150万ha（前年度比7.1%減）

生産量：750万トン（同20.1%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：916万トン（同20.9%減）

輸出量：605万トン（同29.6%減）

2023/24年度の砂糖生産量と輸出量は大幅に減少する見込み

2023/24年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、エルニーニョ現象などによる乾燥天候を

考慮して、より乾燥に強いキャッサバに転換する農家が増加しているとされるものの、150万ヘクタール（前年度比7.1%減）とかなりの程度減少すると見込まれる（表7）。サトウキビ生産量は、収穫面積の減少に加え、エルニーニョ現象による天候不順がサトウキビの生育に大きく影響し、7500万トン

（同20.1%減）と過去2年と比べ大幅な減産が見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビの減産を受け、916万トン（同20.9%減）と大幅に減少すると見込まれる。輸出量も、砂糖の減産を背景に、605万トン（同29.6%減）と大幅に減少すると見込まれる。

表7 タイの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

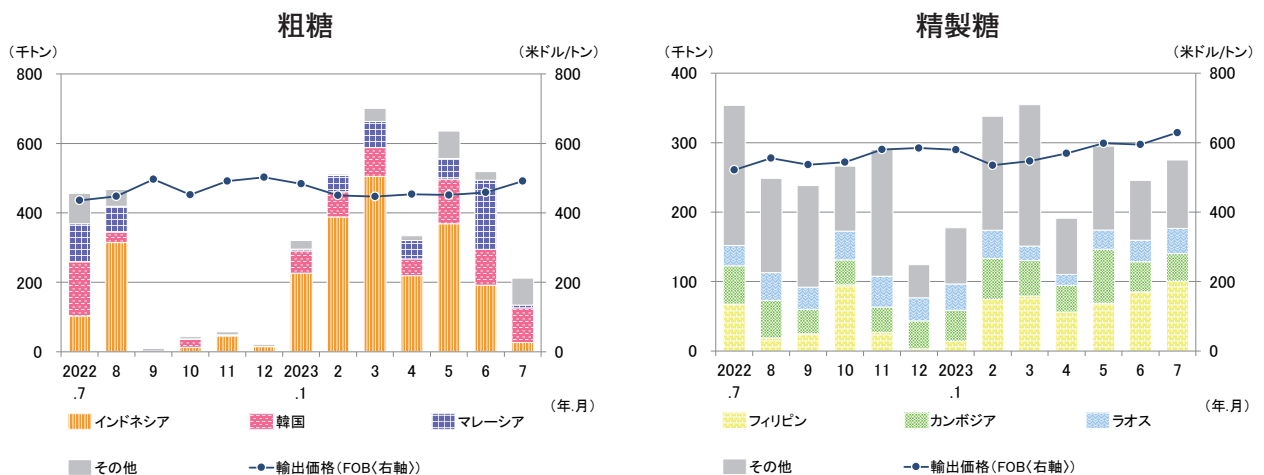
年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (9月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,485	1,525	1,617	1,502	▲ 7.1%	
サトウキビ生産量	66,659	91,145	93,888	75,000	▲ 20.1%	
砂糖	生産量	7,981	10,749	11,575	9,157	▲ 20.9%
	輸入量	111	149	170	170	0.0%
	消費量	3,592	3,424	3,348	3,309	▲ 1.2%
	輸出量	3,981	8,085	8,592	6,047	▲ 29.6%
	期末在庫量	5,051	4,442	4,247	4,218	▲ 0.7%
	期末在庫率	66.7	38.6	35.6	45.1	9.5ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, September 2023」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。